

令和7年度第2回沼田市総合教育会議会議録

- 1 開催日 令和8年2月16日(月)
- 2 場所 テラス沼田 庁議室
- 3 出席者
沼田市長 星野 稔
沼田市教育委員会
教育長 竹之内 篤
委員 武藤 英子
委員 小黒 陽子
委員 佐藤 広幸
事務局
教育部長 星野 盾、教育総務課長 栗原 満博、学校教育課長 林 武史、生涯学習課長 武井 良和、文化財保護課長 原澤 秀樹、スポーツ振興課長 阿部 勝良、教育総務課補佐兼総務係長 真船 啓子
- 4 開会 午後1時23分
- 5 挨拶 星野市長
竹之内教育長
- 6 会議録署名人の指名
市長が佐藤 広幸 委員を指名
- 7 議題 議長：星野市長
(1) 業務量管理・健康確保措置実施計画について
学校教育課長から、実施計画(案)の概要について説明

◎主な意見

(武藤委員)

小1の壁とって保育園に通っていた子供が学校に通うようになると、時間も違うのでとても大変だという話を聞いている。沼田小学校に聞いたところ、先生が門を開けて待っていたり、用務員さんがみてあげたりしている場合もあるようだが、朝は親にしてみるととても大変な時間で、学校の先生は自分の子供のことは二の次で学校の子供の面倒をみなくてはならない。子供の安全を考えたときに何かいい方法がないのかと思いながら話を聞いていた。自分が子供を育てていたときは親に子供を預けていたが、今は核家族が多かったりするので、現状を知りたいところもある。

(小黒委員)

教育職員の令和6年度の時間外在校等時間をみると、中学校の先生方の勤務時間が長いように思うが、部活動を見る時間等が影響しているのかという気がする。今、部活動の地域移行も進んでいるので今後改善されて、パーセンテージが下がっていくのではないかという予想と期待と両方抱いている。

(佐藤委員)

部活動が社会教育に移行しつつあるが、それと同時に部活動が多岐にわたり学校の部活動の顧問が県の強化部活等に所属すると、土曜日、日曜日にも長時間の労働になってしまう。学校での部活動を勤務時間内に抑えていただけるようになるというと思っていた。それと同時に、地域と関わる行事がたくさんあり、学校の一方的な判断でということが難しい。地域の方にも教職員の過重労働をわかってもらうことが必要で、公表するとなればまた違ってくると思う。

学校の登校時間は8時頃だが、7時半には職員が行っている。誰もいないところで子供たちが動いたり遊んだりしないようになっている。ところが共働きが増え、7時半では遅いので7時や6時台に開けてくれないかという話が出ていると学童で聞いた。エスカレートしていくと困るので、最低限7時半に開けるくらいでそれ以上早くならないような方法をとれるといいと思う。学校内の分掌によって労働時間が長くなったりするので、大変な分掌に関しては、分掌の割り振りができるような方法を学校内で相談できればと思っている。学校の取り組みと、職員自身が勤務時間を短くしようという意識、効率よく仕事をして早めに帰る意識を持てたらいいと思う。

(星野市長)

今回のこの実施計画で、少しでも改善を図っていく決意で臨んでいく。3年ほど前から群馬県知事が、朝の子供の居場所、登校前の子供を預かれる場所を作ると補助金を出すと言っていたが、場所の問題、運営等があるので、今の社会的な課題であると認識をしている。この点についても調査・研究をさせていただくので、皆様のご意見を賜りたい。

(2) 令和8年度実施予定事業について

注目事業・重点施策・主な事業について各課長から説明

○教育総務課

- ・小学校校舎等整備事業
- ・沼田給食センター給食費
- ・スクールバス等運行事業
- ・コンピュータ管理事業
- ・学校再編事業
- ・スクールバス購入事業
- ・教育用コンピュータ管理事業
- ・沼田給食センター管理費

○学校教育課

- ・たんばら・森林の学校事業
- ・外国語指導助手設置事業
- ・学校教育支援事業
- ・学校体育活動振興事業
- ・沼田市通学路見守りサポート事業
- ・ふるさとぬまた未来創造奨励金事業
- ・教育振興管理費
- ・沼田市中学校国際交流事業

- 生涯学習課
 - ・図書館施設整備事業
 - ・市民文化活動推進事業
 - ・人権教育推進事業
 - ・図書資料購入事業
 - ・青少年健全育成推進事業

- 文化財保護課
 - ・文化財保全事業
 - ・旧生方家住宅等管理事業
 - ・生方記念文庫管理事業
 - ・上之町文化財施設管理事業
 - ・歴史資料館管理事業
 - ・埋蔵文化財調査センター管理事業

- スポーツ振興課
 - ・保健体育総務管理事業
 - ・国民スポーツ大会推進事業
 - ・市民体育館管理事業
 - ・利南運動公園管理事業

◎主な意見

(小黒委員)

学校教育課の沼田市中学校国際交流事業は中学3年生を対象としているが、希望者か全員か。3年生だけでなく、2年生まで幅を広げるということは考えていないのか。

(学校教育課長)

3年生は全員で、2年生まで広げられるといいと思うが、授業時間内に行っているためなかなか難しい。以前は夏休みを使っていたが、授業内に組み込めるのではないかと行っている。もう少し工夫が必要になるので、しばらくは3年生でやってみて、もう少し可能性が広がれば、拡大していくことも視野に入れたいと思う。

(小黒委員)

以前は、ホームステイを行っていたと思うが、それが復活するという可能性はないのか。

(学校教育課長)

初めはハワイに訪問していて、その後オーストラリアに変わったが、新型コロナウイルス感染症の関係で中断をした。再開も検討したが、一人当たりの単価が非常に高くなり、わずかな子供しか連れていくことができない状況である。今までも20人弱の子供を連れていくことしかできなかったのも、一部の生徒に限られていたことを全生徒が体験できる形に重点を置いたということで、また復活させようとは今のところ考えていない。

(星野市長)

予算全体のことを話させていただく。

浄水場の課題、ごみ処理の広域化、学校の再編、この3つが大きな課題となっている。今まで手をつけられなかったが、先送りできないという判断をした。

水道の供給は簡易水道にも頼っているが、簡易水道を管理している方たちも高齢化、人員不足となり、安全な状況で供給ができなくなる。社会のシステムを変えない限り、地方は維持ができなくなると感じている。次の世代に安定した状況で渡していかなければならない。

市の財政は、非常に厳しい。市税収入は63億円ほどを見込んでいるが、地方交付税、国の交付金等の依存財源に頼らざるを得ない状況である。生産人口が減ってきて、農業の方々も所得が増えていない状況である。売上げが増えても支出も増えている。1億円売り上げても実質は500万円、非常に厳しいということである。この社会構造を一気には変えられないが、変えるのは今しかないというのが率直なところで、そのためには予算も使う。

横塚の産業団地については、造成が始まる。沼田にどういう企業を呼び込むのか、どういう産業を起こしていくのかということである。今までは企業を呼ぶ土地もなかったが、今回18ヘクタールの産業団地ができるので、これからようやく勝負ができるころまで来た。企業を呼び込むということは、設備投資をするので固定資産税に反映される。税収を増やすめどをつけたいというのが正直なところである。若い世代が帰ってきて、この地域の産業、経済が活力を持つということが一番の狙いである。企業誘致については、今年から来年にかけてが正念場になると思う。

もう1点は森林文化都市アクションプランである。みなかみ町は雄大な自然があり、ユネスコエコパークに登録されて、有名な企業が拠点を持ってきている。片品にも雄大な尾瀬がある。沼田が立ち打ちできるかということ、自然環境では無理だと思う。玉原は小さいが原生林に近い形の自然林で残っているので、ここを切り口にしたのが、森林文化都市アクションプランである。アクションプランは職員から提案された10事業であるが、市有林を使ったJクレジット事業は、日本最大規模のエネルギー会社と一緒に動き出している。

県の企業局と東京電力が行っている、白沢地区の水力発電所の大規模改修で発電機械を入れ替えているので、完成すると沼田市に相応額の固定資産税が入ることとなる。市税収入となる事業導入を見込んで、産業団地造成、企業誘致も進める。財政を強くして子育てにも教育にも予算を振り向けていきたい。

(小黒委員)

財政が厳しいという話を聞いたが、近隣の町村の教育費を調べてみた。令和7年度の一般会計歳出予算の教育費で、川場村が23.9%、みなかみ町は14.5%、昭和村は15.4%だが、沼田は9.1%ということで一桁である。川場村は川場学園の設立もあるので教育費の予算が割合が高いのはわかるが、それ以外の町村もおよそ15%の予算が組まれている中で、沼田市が10%に満たないというのは残念に思った。1%上げるのは非常に難しいことだとは思いますが、せめて2桁に持って行っていただきたい。厳しいことを言うようだが、子供にお金をかけられない市町村には未来がないと感じた。

(星野市長)

川場村については、川場学園のスタートの年で予算が増えているというのはある。比率については予算規模からして沼田が低くなるのはやむを得ない。小黒委員さん

のおっしゃるとおり子供の教育が次の沼田を作っていくので、よく肝に銘じて進めてまいりたい。

(佐藤委員)

財政を強くしなければどうにもならないなという気持ちはある。森林文化都市についても、玉原、利根町にも森林自体たくさんあるので総合的にできればいいと思う。若い世代は働く場所があれば帰ってくるが、そうでなければ大学を出たら戻ってこない。教育すればするほど沼田市には戻ってこないなので、教育を受けた子供たちが戻ってくるような、若い人たちが働ける企業が沼田に移ってきてくれたらいいと思う。

(星野市長)

木材を使える、加工できる企業を沼田に呼べないかというのが知事の考えである。利益を得られるような企業が欲しいというのが率直なところである。

あと中学生と意見交換をすると、IT企業で働きたいから沼田にIT企業を誘致してほしいという。持てる可能性は最大限追求し、全力を尽くしていこうと思う。今後とも率直なご指摘をいただければありがたい。

教育部門も決して他の自治体に引けを取ることがないように、教育長とも意見交換をしながら連携を密にし、全力を尽くしてまいりたい。

8 閉会 午後2時22分